

国語科学習指導案

三次市立八次中学校
指導者 上土瑞恵

- 1 日時 平成26年9月30日(火) 第5校時
- 2 学年 第1学年1組 38名
- 3 場所 第1学年1組教室
- 4 単元名 古典の世界のよさを紹介しよう～ポップづくりを通して～
教材名：蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から

5 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領「C読むこと」の(1)オ「文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。」及び、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)ア「文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。」、イ「古典には様々な種類の作品があることを知ること。」をねらいとしている。

本教材は「かぐや姫」の物語として絵本や漫画などで広く知られている作品であり、古典の導入教材として生徒は親しみをもつことができる物語である。そして、その物語が、現存する最古の物語として千年以上読み継がれ、語り継がれているという気付きは、さらに生徒の興味関心を高め、古典全般を身近なものと感じることにつながる。また、登場人物を通して、美しいものや不老不死への憧れ、異世界への好奇心や恐怖心、人間の欲望や人間の力では及ばない事象など古人のものの見方や考え方を読み取ることができる。このことから、現代との共通点・相違点について考えることにより、古文に親しみをもたせるだけでなく、自分自身の考え方も広げることができる教材である。

(2) 生徒観

本年度の1学期に行った総合質問紙調査において、「好きな教科や授業がありますか。」の肯定的評価の割合は89.2%、「最近、学校の勉強が難しくなったと感ずることがある。」という設問に対して「大変だけど理解している」と回答した生徒は70.3%であった。このことから、中学校に入り、学習面での大変さは感じているが、意欲的に取り組んでいることが分かる。しかし、1学期定期試験「読むこと」に関する問題の正答率は中間試験では69%だったが、期末試験は54%と下がり、他の領域に比べ下げ幅が大きかった。場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する力や文章の構成展開・表現の特徴について自分の考えをもつことなどの力に課題があると考えられる。

(3) 指導観

上記の課題解決の取組として、昔話とその原典の古典や教科書の古典を読み比べて、「古典の世界のよさを紹介するポップを作る」ということを、単元を貫く言語活動として設定する。具体的には、「かぐや姫」と「竹取物語」の比較から、内容が変化した理由や古人の思いについて考えを

書かせる。まず、生徒が必ず聞いたり読んだりしたことのある、絵本「かぐや姫」を導入に使い興味関心をもたせ、教科書の内容を理解しやすくする。そして、比較させるために、教科書「竹取物語」の内容を読み取らせる。その際、古文に対する負担感をもたせないよう、現代語訳を中心に読み取らせる。二つの作品を比べ、相違点や共通点から、内容が変化した理由やもとの作品からうかがえる古人の思いについて考えさせ、ものの見方や考え方を広げさせたい。さらに、比較させる際には、ただ叙述を中心にさせるのではなく、登場人物の視点を変えることで、古人の思いに触れさせたい。また、協同学習を仕組むことによって、多様な捉え方にも触れさせる。次に、様々な古典に触れ、ものの見方や考え方を深めさせるため、他の昔話とその原典を個人で比較させ、古典のよさを紹介するポップとしてまとめさせる。このことは、生徒の考えが深まるだけでなく、これから学習する古典に対して様々な見方や考え方ができるようになると考える。

指導に当たっては、次のようなことに取り組む。

研究の視点	手 立 て
協同学習の工夫	①個人思考を促すために、「かぐや姫」と「竹取物語」の相違点・共通点から、変化の理由や古人の思いについて自分の知識や体験と関連付けながら、記述させる。 ②協同学習の場では、なぜそのように考えたのか、根拠を明確に説明させることで、思考を深める。
生徒指導の三機能	・切り返しの発問を行うことで、書く意欲をもたせ自己決定の場をつくる。 【自己決定の場】 ・グループで音読練習や意見交換を繰り返し行うことにより、自己存在感を与える。 【自己存在感】 ・作成した「ポップ」を相互評価することで、共感的人間関係を育成する。 【共感的人間関係】
言語活動の充実	・「ポップ」を作るという言語活動を設定することで、古文を読む必然性を持たせると共に、これから学習する古典に対して様々な見方や考え方ができるようにする。 ・生徒にとって身近な絵本を活用することで、言語活動への意欲を高める。

6 単元の目標 【中学校学習指導要領C－(1)－オ】

- ・古典全般に興味をもち、古文のリズムや表現について関心をもっている。
(国語への関心・意欲・態度)
- ・古文の表現や現代語訳から、古人のものの見方や考え方に気付き、自分のものの見方や考え方を広げることができる。
(C読むこと)
- ・歴史的仮名遣いなどの古文のきまりと現代語訳について理解することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

7 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
①古典に触れることの意義を理解しようとしている。	①古文や現代語訳から内容を読み取っている。	①歴史的仮名遣いと主な古語の意味を理解している。
②古典の作品の特徴について理解しようとしている。	②古文に書かれた古人のものの見方や考え方について、自分の考えをまとめている。	②様々な古典に触れ、古典にはいろいろな種類の作品があることを理解している。
③古文のリズムや表現に関心をもち、進んで音読しようとしている。		

8 指導と評価の計画（全8時間 本時 6/8）

次	学習内容 (時間数)	評 価			評価方法	
		関	読	言		評価規準
一	<ul style="list-style-type: none"> 単元の見通しをもち、古典について、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いについて理解する。 <p>(1)</p>	○		◎	ア①古典に触れることの意義を理解しようとしている。 オ①歴史的仮名遣いと主な古語の意味を理解している。	行動観察 ノート
	<ul style="list-style-type: none"> 絵本「かぐや姫」から「竹取物語」について知り、作品の特徴を理解する。 <p>(1)</p>	◎		○	ア②古典の作品の特徴について理解しようとしている。 オ①歴史的仮名遣いと主な古語の意味を理解している。	行動観察 ノート
二	<ul style="list-style-type: none"> 「竹取物語」の冒頭部分を繰り返し音読し、言い回しやリズムを味わう。 <p>(1)</p>	◎			ア②古文のリズムや表現に関心をもち、進んで音読しようとしている。	行動観察
	<ul style="list-style-type: none"> 五人の貴公子求婚やかぐや姫の苦悩・月への昇天の部分を読み取る。 後日談の部分を読み登場人物の心情を読み取る。 <p>(2)</p>		◎	○	エ①古文や現代語訳から内容を読み取っている。 オ①歴史的仮名遣いと主な古語の意味を理解している。	ノート
	<ul style="list-style-type: none"> 絵本「かぐや姫」と教科書「竹取物語」を読み比べ、内容の違いについて読み取り、内容の変化の理由や古人の思いをとらえる。 <p>(1)【本時】</p>		◎		エ②古文に書かれた古人のものの見方や考え方について、自分の考えをまとめている。	ワークシート

<p>・他の昔話とその原典の口語訳を読み比べ、内容の違いや共通点から変化の理由や古人の思いについて自分なりに考え、古典のよさをポップにまとめる。</p> <p>(2)</p>	◎	<p>エ②古文に書かれた古人のものの見方や考え方について、自分の考えをまとめている。</p> <p>オ②様々な古典に触れ、古典にはいろいろな種類の作品があることを理解している。</p>	作品(ポップ)
---	---	--	---------

9 本時の目標

○絵本「かぐや姫」と教科書「竹取物語」の内容を比較し、違いについて自分の考えをもつことを通して、作品に表れる古人のものの見方や考え方を読み取ることができる。

10 本時の評価規準

古文に書かれた古人のものの見方や考え方について自分の考えをまとめている。(エ②)

11 準備物

(教師) 絵本「かぐや姫」の本文と教科書「竹取物語」の両方を載せたワークシート

12 本時の指導過程

過程	学習活動 主な発問(○)と予想される児童の反応(・)	指導上の留意点	評価 【評価方法】
つかむ	<p>1 本時のねらいと学習内容を確認する。</p>	<p>・単元の流れを意識させ、前時までの学習と本時の学習を関連付ける。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">絵本「かぐや姫」と「竹取物語」の違いを話し合うことができる。</div>			
考える・表現する	<p>2 竹取物語の結末部分を読む。</p> <p>3 竹取物語に表れている登場人物の考え方や生き方を読み取る。</p> <p>○ 絵本「かぐや姫」になくて、「竹取物語」にある部分はどんなところですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翁に衣だけでなく手紙を残したところ。 ・帝に不死の薬と手紙を残したところ。 ・帝が不死の薬を燃やしたところ。 <p>○ なぜ、帝は天に近い山で、不死の薬を燃やしたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もらったものを残していたら、いつまでも思いを引きずってしまうから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古文のリズムに親しませるため、古文の部分は、繰り返し音読させる。 ・ワークシートを活用し、絵本との比較をさせる(言語活動) ・より実感を持って理解させるために、自分たちの経験や見方を生かし、登場人物の立場に立って考えさせる。 ・教科書に書かれていない翁の 	

	<p>・天に一番近いところで燃やすことで、自分の気持ちを少しでもかぐや姫を伝えたかったから。</p>	<p>様子を紹介するとともに、帝との共通点を考えさせることで、当時の古人のものの見方や考え方を読み取らせる。</p>	
学び合う	<p>4 「竹取物語」の帝の部分の効果について考える。【自己決定】【共感的人間関係】 <協同学習①・②> ○ 帝の部分はあったほうがいいだろうか、ないほうがいいだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(あり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切な人を思う気持ちが、より強く伝わるから。 ・読み手が共感できるから。 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ないほうがロマンチックに終わって、余韻が残るから。 ・かぐや姫の話なのに、帝の気持ちでおわってしまうから。 </div> <p>5 意見を交流し、それぞれの意見の関連性を見つける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で思考する時間をとる。 ・班で、司会者を中心に意見を交流し、それぞれの意見の中で一つにまとめる。 <協同学習①・②> ・考えが持ちにくい生徒には、「あり」の方で考えさせ、板書の言葉を使いながら書くよう助言する。 ・深く考えることができていない生徒には、より説得力をもたせるため、自分の知識や経験と関連付けて書かせる。 ・ポップの作成につながるように、生徒の言葉をキーワードでまとめていく（言語活動） (あり) 恋愛・強い気持ち・残された人 (なし) 不思議・かぐや姫中心 	
まとめる	<p>6 本時の学習と次時の学習内容を理解する。 ○ 竹取物語のポップを作るとしたら、どのような言葉で紹介しますか。本時のまとめとして書いてみましょう。</p> <p>(ポップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぐや姫を思う強い気持ちがわかります。今も昔も同じですね。 ・大切な人を失う気持ち、慕う気持ちが伝わるお話。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめが書きやすいように、板書のキーワードを使うように指示する。 	<p>古文に書かれた古人のものの見方や考え方について自分の考えをまとめている。 (エ②) 【ポップ】</p>

13 板書計画

